

地域づくりを巡る小さなまち旅～時間 空間 旅～

－ 画一化する街並みの中で地域個性を巡る旅 －



(公財) 福岡アジア都市研究所 会員研究員 (2019～2020 年度)

大塚 政徳



唐津街道姪浜まちづくり協議会卒業直後に熊本地震で甚大な被害を受けた熊本城を訪問(2016年6月)。これをきっかけとして「地域づくりや建築の原点に戻る旅」と「熊本の復興の過程を巡る旅」をスタートした。



復旧が進み、2021年4月26日の特別公開第3弾開始(天守閣内部公開)を待つ熊本城(2021年3月)。熊本地震から5年の節目に完全復旧する天守閣は、震災復興の象徴であり、筆者も感慨深いものがある。

※表紙写真: 筆者が提唱する「博多湾姪浜 夢海道(回廊) & 海遊(回遊)プロジェクト構想」エリアの福岡タワーから見た景観(2021年1月)。筆者にとって身近な「職・住・遊・活」のエリアでもある。

はじめに（研究の目的）

筆者は、(公財)福岡アジア都市研究所の会員研究員として 2017 年度に行った「身近な地域資源を活かしたまちづくりの実践方策に関する研究～姪浜でのまちづくり活動と地域づくりを巡る小さなまち旅を通して～」の最後に次のように述べている。

インターネットの発達した現在においては、その地域や場所に行かなくてもいろいろな情報を入手できるが、時間をかけてその地域や場所に行く移動の過程でいろいろなことを想像し、思考を深めることができる。また、実物を見て空間を体験し地域の方々と対話することで、新たな考えが生まれ、地域づくりのヒントを得ることができる。近代建築の教科書と呼ばれる「空間 時間 建築」（ジークフリード・ギーディオン著）のタイトルを引用するわけではないが、情報化時代の地域づくりにおいてこそ「空間 時間 旅」の視点が求められているのではないだろうか。

（中 略）

今後、「地域づくりを巡る小さなまち旅」の訪問地の情報や感想を加えながら、機会を見つけて「まちづくり読本」としてわかりやすく編集していきたいと考えている。

筆者は 2018 年 3 月末で福岡市役所を退職するが、これまでの 32 年にわたる市役所での業務経験（景観づくり、広域連携、空き家対策、耐震対策等）や姪浜での 10 年間の精力的なまちづくり活動、そして学生時代から続けている小さなまち旅の実践等を踏まえ、今後も執筆活動や講演活動等を通して、いろいろな地域の「身近な地域資源を活かしたまちづくり」を支援していきたいと考えている。筆者が伝えていきたいことは、「それぞれの地域の風土・歴史・文化を活かしたまちづくり」「こだわり、おもてなし、本物志向の地域づくり」、そして「それを進める地域内の各団体の協働・連携のあり方」である。

さて、筆者の小さなまち旅の歴史は、熊本大学建築学科に入学した 1976 年に遡る（この頃の旅は「建築を巡る旅」）。もちろんそれ以前にも修学旅行で京都や奈良の古建築等を見に行っことはあるが、本格的に建築見学を始めたのは大学に入学した時からである。当時の九州地方は「現代建築の宝庫」と言われ、建築を学ぶ多くの学生たちが磯崎新氏や黒川紀章氏、白井晟一氏等が設計した建物の見学に訪れていた。筆者も磯崎新氏の作品を中心にエネルギーに見て回った。

4 年間の大学生活を経て、会社員になった 1980 年からは現代建築に加え、京都や奈良等の古建築や庭園巡り、川越や栃木等の歴史的町並み巡りを始めた。その中でも何回も足を運んだのは、京都の桂離宮や修学院離宮、円通寺、奈良の薬師寺、川越の歴史的町並みである。そして、6 年間の会社員生活の締め括りはギリシャ、イタリア、エジプトの古建築巡りであり、大学で学んだことを実際に見て大いに感激したものである。

1986 年に福岡市役所に入庁したが、今までの旅に転機が訪れたのは 1993 年に都市景観室に配属された時であり、京都や奈良、横浜、神戸等の景観づくりの先進地を数多く視察した。また、海外派遣調査で 3 週間にわたりヨーロッパの先進都市の都市デザインの調査を行い、景観づくりや地域づくりの手法を学ぶことができた。その後、2000 年度から 3 年間在籍した福岡都市科学研究所（現(公財)福岡アジア都市研究所）でも、国内外の多くの都市の景観づくりや地域づくりの研究を行う機会に恵まれた。

また、福岡市役所の業務とは別に、2007年3月には自ら「唐津街道姪浜まちづくり協議会」を立ち上げ、2016年5月に卒業するまで事務局長として地域固有の歴史・文化資源を活かしたまちづくりを推進してきた。この間も、景観づくりや地域づくりをテーマに多くの都市や地域を訪問し、見聞を広めてきた。

唐津街道姪浜まちづくり協議会卒業直後の2016年6月からは、「地域づくりや建築の原点に戻る旅」や「熊本の復興の過程を巡る旅」「身近なまち旅」を始めた。これらは、姪浜での10年間のまちづくり活動を振り返る旅であり、次の二毛作目の人生に向かって自分を見つめ直す旅でもある。いろいろな地域を旅し、その魅力を体感することは、地域づくりを考える上で大いに参考になるし、新たな出会いもある。特に、大学時代の思い出の多い熊本の復興の過程を見に定期的に熊本を訪問している。

筆者は2018年3月に福岡市役所を退職し、同年4月からは民間の建築確認検査機関の職員として九州各地を飛び回っており、いろいろな地域の歴史や風土に触れる機会も多い。そうした恵まれた職場環境も活かして「地域づくりを巡る小さなまち旅」を楽しみ、現在に至っている。

本研究は、2017年度に行った「身近な地域資源を活かしたまちづくりの実践方策に関する研究～姪浜でのまちづくり活動と地域づくりを巡る小さなまち旅を通して～」の研究成果を活かすとともに、その後も充実させながら継続している小さなまち旅から得たことを「モノ（地域資源）」「ヒト（人、組織）」「コト（ストーリー）」の視点で整理し、『画一化する街並みの中で地域個性のあり方』について考察するものである。

また、筆者の身近な「職・住・遊・活」のエリアである博多湾姪浜エリアを対象として、これまでの小さなまち旅の成果をフィードバックし、まち歩きフィールドワークを行いながら、広域連携という視点で『博多湾姪浜 夢海道（回廊）&海遊（回遊）プロジェクト構想』を提案するものである。

さらに、筆者の小さなまち旅を踏まえ、景観づくりや地域づくりの魅力を考える旅のテーマを設定し、『地域個性を巡る小さなまち旅の事例集～身近な地域の魅力の再発見～』として写真と文章でわかりやすく伝えていくものである。

全国的に個性の感じられない同じような街並みの形成が進む中で、身近にある地域資源を見直すきっかけとなり、景観づくりや地域づくりのヒントにしていれば幸いである。

なお、「本稿の構成と各章の要約」は次のとおりである。

【本稿の構成と各章の要約】

【Part. 1】小さなまち旅～モノ・ヒト・コト～

まずは、大学時代からの「現代建築を巡る旅」、会社員時代からの「歴史的建造物と町並みを巡る旅」、公務員時代からの「景観づくりと地域づくりを巡る旅」、そして現在進行中の「地域づくりや建築の原点に戻る旅」「熊本の復興の過程を巡る旅」「身近なまち旅」に至るまでの筆者の「小さなまち旅」の系譜を述べる（第1章）。

次に、建築や地域づくりに関連する筆者の「福岡市役所での関連業務」「姪浜でのまちづくり活動の実践」等の系譜を述べる（第2章）。

さらに、上記（第1章、第2章）を踏まえ、身近な地域資源を活かしたまちづくりを「モノ・

ヒト・コト」の視点で整理し、筆者が実際に訪問した地域の事例を紹介しながら、『画一化する街並みの中で地域個性のあり方』について考察するものである。また、熊本の復興の過程を巡る旅から得た「モノ・ヒト・コト」についても紹介する（第3章）。

最後に、小さなまち旅の成果を筆者の身近なエリアへフィードバックし、『博多湾姪浜 夢海道（回廊）&海遊（回遊）プロジェクト構想』を提案する（第4章）。

【Part. 2】地域個性を巡る小さなまち旅の事例集～身近な地域の魅力の再発見～

Part.1 と重複する部分はあるが、小さなまち旅で筆者が感じたことをテーマごとに分類し、景観づくりや地域づくりの魅力を感じたり、身近にある地域資源を見直すヒントやきっかけとしてもらえるよう写真と文章でわかりやすく紹介する。

ページ数は多いが、各章ともできるだけ読み切り形式にしているので、興味のある部分だけでも読んでいただければ幸いである。

地域づくりを巡る小さなまち旅～時間 空間 旅～

－ 画一化する街並みの中で地域個性を巡る旅 －

目 次

はじめに（研究の目的）	1
【Part. 1】 小さなまち旅～モノ・ヒト・コト～	9
【第1章】 筆者の「小さなまち旅」の系譜	10
1 筆者の旅の系譜	10
（1）これまでの旅の整理	10
（2）現代建築を巡る旅（学生時代 1976.4～1980.3）	12
①建築との出会い（熊本大学建築学科入学）	
②歴史的建造物への興味（木島安史先生との出会い）	
③卒業論文	
（3）歴史的建造物と町並みを巡る旅（会社員時代 1980.4～1986.3）	17
①建築巡り	
②歴史的建造物への興味の増進	
③歴史的町並みへの興味	
④最初の海外への旅（古典建築を巡る旅）	
（4）景観づくりと地域づくりを巡る旅（公務員時代Ⅰ 1986.4～2007.2）	24
①2回目の海外への旅（美しい街並みを巡る旅）	
②都市景観室時代の先進都市調査	
③海外派遣研修	
④福岡都市科学研究所での先進都市調査	
（5）地域主体の景観づくりと地域づくりを巡る旅（公務員時代Ⅱ 2007.3～2016.5）	36
①唐津街道姪浜まちづくり協議会設立	
②まちづくり協議会の活動の一環としての「身近な景観づくりを巡る旅」	
③筆者自身の「景観づくりと地域づくりを巡る旅」	
2 現在の旅（2016 熊本地震前後～）	41
（1）現在の旅のきっかけ（姪浜から熊本へ）	41
エッセイ 二毛作目の人生の始まりは、被災後の熊本城訪問から	42

(2) 地域づくりや建築の原点に戻る旅	4 8
【風景、気候、風土、文化】	
【町並み、集落、地域、路地、市場】	
【歴史的建造物、現代建築】	
【季節、花、樹木、鉄道】	
【モノ、ヒト、コト（ストーリー）】	
(3) 熊本の復興の過程を巡る旅	6 3
エッセイ 熊本地震と私～オオクワガタから始まった旅は復興へと向かう旅へ～	6 4
(4) 身近なまち旅	7 2
①身近な「職・住・遊・活」の場である博多湾姪浜エリア	
②憩いの空間、現在の職場周辺	
(5) 「アート」「歴史」「旅」「生き方」等をテーマにした旅	7 8
【マスコミ情報】	
【書籍】	
【映画】	

【第2章】 建築や地域づくりに関連する筆者のこれまでの業務、活動等の系譜

1 第2章の位置づけ	8 2
2 建築や地域づくりに関連する筆者のこれまでの業務、活動、経験等	8 3
(1) 学生時代の設計課題	8 3
(2) 会社員時代のコンペ	8 5
(3) 福岡市役所での関連業務	8 6
(4) 姪浜でのまちづくり活動の実践	8 9
(5) まちなみネットワーク福岡での活動	9 1

【第3章】 画一化する街並みの中で地域個性のあり方についての考察

～小さなまち旅の実践等から得たモノ・ヒト・コトを通して～

1 視点の整理	9 3
(1) これまでの福岡市役所での業務やまちづくり活動の実践から得た視点	9 3
(2) 小さなまち旅から得た新たな視点	9 4
2 画一化する街並みの中で地域個性のあり方についての考察	9 5
(1) モノ（地域資源）	9 5
【その地域ならではの魅力資源の評価】	
①重要伝統的建造物群保存地区	
②重要文化的景観	

③都市景観条例に基づく都市景観形成地区	
④印象に残る制度	
【画一化する街並みの中で見えにくくなりつつある地域資源の発掘・評価・活用】	
①筆者が実践してきた姪浜	
②小さなまち旅での地域個性の発見	
③広域的な視点から探る地域の魅力	
【多様なテーマから地域づくりのヒントを考える】	
①風土、気候、地形等	
②町並み景観、集落景観	
③歴史的建造物	
④樹木	
(2) ヒト (人、組織)	…………… 112
【地域のまちづくりに求められる視点、まちづくり人に求められるもの】	
【地域に根ざしたまちづくり組織】	
【地域内の各団体の連携による活動の広がり】	
【小さなまち旅のすすめ】	
①「空間 時間 旅」の視点	
②小さなまち旅	
【樹木や花から景観の美しさ、組織のあり方を考える】	
①桜並木	
②イチョウ、ケヤキの紅葉	
③花	
(3) コト (ストーリー)	…………… 117
【各地域のそれぞれの魅力資源を活かしたまちづくり】	
【まちづくりの課題や段階 (ステージ) に対応した取り組み】	
【場所性や地域固有の材料を活かした建築と地域づくり】	
【広域連携による地域づくり】	
事例紹介 北斎館に端を発した小布施の地域づくり&北信濃地域への展開…………… 122	
【点・線・面による地域づくりがもたらす地域のアイデンティティ】	
3 熊本の復興の過程を巡る旅から得たモノ・ヒト・コト	…………… 130
【復興のシンボル熊本城：前向き思考、縁、人】	
【町家の再生：大地震を乗り越え、脈々と受け継がれる文化都市・熊本】	
【阿蘇：前向き思考、地域一丸で取り組む復興、鉄道でつながる地域】	
【一つひとつのストーリーの積み重ね、人と人との出会いやつながり】	

【第4章】 小さなまち旅の成果の筆者の身近なエリアへのフィードバック
～博多湾姪浜 夢海道（回廊）＆海遊（回遊）プロジェクト構想～

	138
1 プロジェクトの対象エリアと取り組みの視点	138
（1）「博多湾姪浜 夢海道（回廊）＆海遊（回遊）プロジェクト構想」の対象エリア	138
【筆者の身近な「職・住・遊・活」のエリア】	
（2）取り組みの視点	141
【福岡市役所での業務、姪浜でのまちづくり活動の実践、小さなまち旅の実践を活かした視点】	
（3）広域連携の視点を踏まえた博多湾姪浜エリアでの筆者のこれまでの提案及び実践活動	142
【唐津街道姪浜地区を中心とした回遊ルートづくり】	
【広域連携を視野に入れたこれまでの実践活動、姪浜まち旅プロジェクト計画の作成】	
【広域的に見たコントラストのある景観と4つの視点場】	
【都市・歴史・自然の風景を楽しむトライアングルフットパス構想】	
2 小さなまち旅の一環としての身近なまち旅の実践	148
（1）広域連携の実践に向けたまち歩き	148
（2）各地区の概要	148
【シーサイドももち地区】	
【愛宕・豊浜地区】	
【愛宕浜地区】	
【姪浜地区】	
【小戸・生の松原地区】	
【能古島】	
【博多湾】	
3 博多湾姪浜 夢海道（回廊）＆海遊（回遊）プロジェクト構想	153
（1）博多湾姪浜エリアのイメージ	153
【博多湾に沿っては池泉回遊式庭園、内陸部は箱庭的都市のイメージ】	
（2）博多湾姪浜 夢海道（回廊）＆海遊（回遊）プロジェクト構想	154
【コントラストのある都市空間】	
【博多湾姪浜 まち旅プロジェクト＝博多湾を通して地域（モノ・ヒト・コト）をつなぐ】	
【博多湾姪浜と歴史的にゆかりのある都市との広域交流（五ヶ浦廻船等）】	
エッセイ 日本海を隔てた広域交流の提案	159

【Part. 2】 地域個性を巡る小さなまち旅の事例集～身近な地域の魅力の再発見～

	……………	1 6 1
1 小さなまち旅から考える景観づくりや地域づくりのテーマ	……………	1 6 2
2 景観づくりや地域づくりの魅力を伝える62のテーマと概要	……………	1 6 3

大テーマ		
地域づくりや建築の原点に戻る旅		
風景、気候、風土、文化	……………	1 6 4
町並み、集落、地域、路地、市場	……………	1 8 1
歴史的建造物、現代建築	……………	2 2 0
季節、花、樹木、鉄道	……………	2 6 2
モノ、ヒト、コト（ストーリー）	……………	2 9 8
熊本の復興の過程を巡る旅	……………	3 2 2
身近なまち旅	……………	3 3 7

おわりに …………… 3 4 9

参考文献等 …………… 3 5 3

【参考資料】

参考資料 1 筆者の旅の系譜

参考資料 2 筆者の最近3年間（2018年～2020年）の小さなまち旅の訪問地
（小さなまち旅3年日記）

注）本稿における表現について

用語	本稿での表現
「町家」「町屋」	団体名称や事業名称等の固有名詞、引用文献で「町屋」を使用している場合を除き「町家」としている。
「街並み」「町並み」	全体的には「街並み」を使用しているが、伝統的な町家が軒を連ねている地域や城下町等では「町並み」としている。
「まち」「町」	町名等の固有名詞を除き「まち」としている。